

Local Area News

新水道会館完成

伊勢崎管工設備(協)

伊勢崎管工設備協同組合(川端護代表理事、組合員74人)では、既存の水道会館が39年経過し老朽化するとともに、事務所が手狭となつたため、将来の事業展開を考慮して新たに水道会館の建設に着手、昨年12月に竣工した。

外観は、周囲の住宅地に圧迫感を与えないよう配慮したデザインで平屋建てとし、水のイメージが伝わるよう建物の一部に使用したブルーカラーがアクセントとなっている。屋根は、南側に広く傾斜し、将来的に太陽光パネルの設置も可

能となっている。建物内は、玄関を入ると、右手に組合事務所、左手は組合員全員を収容できる広さの会議室、奥には応接室や書庫を配置した間取りとなっている。

また、会館建設では、設計段階から、機能や品質において無駄や過剰を取り除くことで、費用の投資効果を最大限に高めることを追求した。工事は、気温30度を超える8月の炎天下という厳しい条件の下、基礎工事が始まり、主な工事を組合員で施工することでスムーズに進行し、着工から約5か月で完成した。

今後は、組合員を対象にした研修会を積極的に企画し、新しい会館の有効活用を目指す。



落成した新水道会館

健康管理を学ぶ

群馬県板金(工)

群馬県板金工業組合(桑原洋理理事長、組合員163人)では、1月11日、渋川市・ホテル天坊において講習会を開催した。

講師にカウンセリングオフィスハルモニア代表の鈴木浄美氏を迎え、「経営者のための健康管理」をテーマに講演した。



鈴木浄美氏

鈴木氏はまず、会社経営者にはレベルの高い自己管理が求められると、日頃から病気の予防に努める必要があると述べた。

次いで、病気の予防における重要な点として、①健康診断の結果を受け止め、再検査が必要なところはすぐに受診する、②タバコは

吸わない、③体が緊張状態では臓器が十分に働かないため、リラククス状態への切り替えを意識することの3点であると説明した。

最後に、体を緊張状態からリラククス状態へ移行するためのトレーニングを実施し、リラククス状態を意図的に作り出すことが健康につながると締めくくった。

施工講習会を開催

桐生管工事(協)

桐生管工事協同組合(星野正夫理事長、組合員40人)では、1月13日、桐生市・広沢公民館において、水道配水用ポリエチレン管施工講習会を開催した。

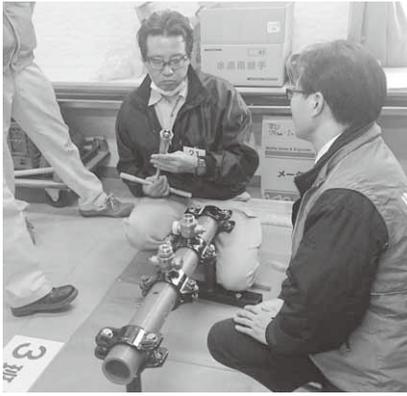
講師は配水用ポリエチレンパイプシステム協会の渡辺昇氏。

渡辺氏はまず、「水道配水用ポリエチレン管」の特徴として、ダクタイル管・塩化ビニル管に比べて、高い耐震性を有しており、他の2管にはない柔軟性がその要因であると説明。また、継手の接合にEF接合という電気融着を用いるため、非常に強固な接合が可能である。そのため、長尺や曲げでの利

LAW

用も容易で、使い勝手が良いため、施工件数は年々増加傾向にあると解説した。

次いで、「水道配水用ポリエチレン管」の施工方法について、管の切断や接合時の注意点等を説明し、特に継手の清掃不足による接合不良が散見されるため、施工時には必ず接合部の清掃を行うことを強



班ごとに分かれた実習の様子

調した。その後、4つの班に分かれ、実習に移行、最後には、講習会の集大成として、確認のテストを実施し閉会となった。

女性部向け研修会を開催 群馬県商店街(振)連合会

群馬県商店街振興組合連合会(今川守会長、会員14組合)では、1月18日、前橋市・前橋アルサにおいて、商店街女性商業者を対象に、カリグラフィアーの月子氏を講師に、POPの効果と作成方法に関する講習会を開催した。

まず、POPとは、Point(場所)Of(の)Purchase(買い物をする)Advertising(広告)の略であり、販売員の役目も果たしていると説明した。さらに、陳列のルールとして、目の高さから下30度くらいの「ゴールデンゾーン」、誘導のルールとして、「右回り(時計回り)と左回り(反時計回り)の法則」を解説した。

POP作成は楽しく書くことが一番大切であり、楽しい気持ちで作成したPOPからは商品の良さが

がお客様に伝わり、手書きPOPには、あたたかみを伝える力が備わると述べた。

その後、参加者が自店の商品素材に、手書きによるPOP作成に関する実習を行った。



POP作成の様子

認知症予防を学ぶ

高崎卸商社街(協)

高崎卸商社街協同組合(松本修平理事長、組合員109人)では、1月25日、高崎市・ピエント高崎において講習会を開催した。

講師に群馬大学大学院保健学研究科教授の山口晴保氏を迎え、「経営者のための認知症予防」をテーマに講演を行った。

山口氏はまず、65歳以上の高齢者のうち認知症を発症している人は15%で約450万人に上る。発症者は、困難を抱えつつも、必死に生きており、そのプライドをケアすることが介護するうえで重要であると説明した。

次いで、魚中心の食事、ポリフェノールの摂取、運動、社会的接触、心的ストレスの解消等が認知症のリスクを大きく軽減すると解説後、幸せであることは認知症予防にとても効果的であり、それを促す行動は「褒める」ことであるため、経営者として意識してほしいと述べた。

最後に、高齢化社会となつてい

る現在では、老後には長さよりも豊かさを求め、経営者だからこそできる幸せな社会作りを行つて欲しいと締めくくった。



多くの人が集まった会場